

七夕ちょうちん祭り& 金魚ちょうちん祭り

飄

々

広報委員

岸本 千種

今夏は猛暑日続きだった。ガラギラの昼間がやっと終わって、西の空がオレンジ色と群青色の層になるひとときにほっとした。

山口の夏の夜と言えば、山口七夕ちょうちん祭り。室町時代、守護大名の大内盛見が先祖の冥福を祈るため、お盆の夜に笹竹の高灯籠に火を灯したのが始まりと言われている。中心商店街のアーケードで、長竹竿に付けられた紅提灯のトンネルを歩いて楽しめる幻想的なお祭り。見たいと思い続けていたが、駐車場のことや次の日の仕事を考えて、実行できなかった。毎年8月6日と7日に決まっているので、曜日は毎年変わる。今年は8月7日が木曜で、広報委員会の日と重なった。今年こそ帰り道に行ってみようと思った。駐車場や帰り道の運転の心配がないJRで行くことにした。

それから天気予報を毎日チェックした。週間天気予報で、8月7日だけが雨マークが出た。前日までは晴れマークなのに。あきらめかけたが、アーケードなら雨でも実行できるかも、もし中止なら、また来年のお楽しみにしようと思いなおした。

8月6日は予定通りにイベントを実施していた。夕方のニュースで、ちょうちんツリーの隣で浴衣姿のアナウンサーが、「明日8月7日は雨の予報なので、縮小開催となります」と伝えていた。Webで「山口市中心商店街アーケードのちょうちん笹飾り・出店は、予定通り開催いたします。」を確認した。

8月7日の朝は大雨が降ったが、JRとバスで県医師会に行くころには、天気も次第に回復して

いった。会議は順調に終了し、タクシーで山口道場門前中心商店街に向かった。縮小開催に伴い、県道204号線の交通規制がなくなり、すんなりと着いた。点灯が始まるまで、暑さを避けて山口井筒屋で過ごした。

数十個の赤い提灯が結びつけられた笹竹が地面と平行に置かれていた。提灯の中の蠟燭に一本ずつ人の手で点火していく。全部灯し終えたら、竿竹を慎重に直立させる。ゆらゆらと炎が揺れるのを、息を止めて見守る。低い位置にある提灯の中がのぞきこめた。バレーボールくらいの大きさの提灯の中央に、普段よく見かける白い蠟燭が立っていた。

写真では、提灯の炎が静かに揺らいでいる雅で幽玄な世界と思っていたが、斜めになった提灯では、燃え出すのがある。ロウがぼたぼた垂れてくるものもある。野球場の「ファウルボールにご注意ください。」のアナウンスを思い出した。緊張感を保ち、頭上に注意することが必要なのがわかった。

アーケード内は、だんだん暑さと熱気が増していった。もともと猛暑日続きに加えて、雨上がりで高湿度である。蠟燭もあれだけたくさん灯ると結構な熱量である。本部の人が「熱中症に気を付けてください」と繰り返しアナウンスしていた。日没後ますます人が増えてアーケード内は混雑してきた。浴衣と下駄で頑張っている若い人たちもかなりいた。コスプレ感覚で非日常体験を楽しんでいるようで、活気にあふれていた。

早めに撤退して、山口駅に向かう道に出た。歩行者天国になっていて、屋台が賑わっていた。両

側にちょうちん笹飾りが並び、余韻を楽しみながら駅まで歩けた。

午後 8 時ごろの山口線に乗った。座れたし冷房もしっかり効いていて快適だった。新山口駅での乗り換えもスムーズで午後 9 時過ぎに徳山まで帰れた。今夏は豪雨で止まることもあったが、JR は楽で翌日にも疲れが残らずに済んだ。来年こそは「提灯山笠」と高さ 15 メートルの「ちょうちんツリー」を見たい。

七夕提灯まつりで自信がついたその勢いで、翌週の 8 月 13 日（水）に柳井金魚ちょうちん祭りを見に行った。仕事帰りに光駅前の市営駐車場に車を置いて、JR で柳井駅まで行った。交通系カード ICOCA が使えた。乗った電車は予想以上にきれいで快適だった。浴衣姿の家族連れや若い人のグループが乗ってきて、20 分でも旅行気分になった。

光駅では階段を昇り降りしたが、柳井駅のホームにはエレベーターがあった。

柳井駅で駅員さんが「帰りの切符を買っておいください」とマイクで呼び掛けていた。改札口のすぐ隣に帰りの時刻表が貼ってあった。大きな文字で見やすく途中駅の到着時刻も書かれていて、スマートフォンを引っ張り出して確認しなくても済んだ。

柳井駅を出て、まっすぐ前方に金魚ねぶたが見えた。麗都路（レトロ）通りの両側に屋台が並び、大勢の人がいた。可愛いうちわと会場マップも配っていたので、ありがたきいただいた。会場マップはイベントの場所や時刻だけでなく AED の設置場所まで情報満載で頼りになった。緊急連絡先の祭り本部と柳井警察署の電話番号も見やすく書かれていた。うちわも暑さ対策に役立った。

駅から 5 分歩いて柳井川の本橋を渡った所で、格好いい男女数人が台上で太鼓を威勢よくどんどこ叩いていた。「らっせらー、らっせらー」の掛け声に合わせて、法被姿の人たちが金魚ねぶたをぐるぐる回して爆走する。学生さんや会社員の人が多いようだったが、岩国の基地の人たちも助っ人で参加していた。青いはっぴを粋に着こなし、迫力満点で爆走していた。金魚ねぶたはビッグサイズだが、金魚ちょうちんと同じくキュートな顔と姿をしていた。

キッズ用に「爆走」体験コーナーが作ってあった。小型の金魚ねぶたを、ちびっ子たちが次々と元気いっぱい回していた。わかりやすい楽しさで印象に残るお祭りだった。翌日も用事をしながら、つい「らっせらっせらっせらー」と浮かんできた。

今年は念願のちょうちん祭りに二か所も行けて良い夏だった。

